クローズアップ!

知っておきたいビジネスキーワード

経営に役立つキーワードを解説(6)

監修:大阪経済大学中小企業・経営研究所

解説:杉田 武志(大阪経済大学 情報社会学部教授)

今月のキーワード

CCC:会社の資金繰りがわかる!

$$\text{CCC} = \text{棚卸資産回転期間} + \text{売上債権回転期間} - \text{買入れ債権回転期間}$$

CCCは何?

近年、会社の資金繰りをあらわす指標のひとつとして利用されるのが CCC (キャッシュ・コンバージョン・サイクル)です。

例えば商品販売を営む事業であれば、仕入れ先から商品等を購入し、それらを顧客等へと販売することで売上収益を獲得します。CCC は、その商品などの仕入れに対する支払い時から、仕入商品が顧客等へと販売され、その売上収益が資金として回収されるまでに、どれくらいの期間(月や日数)がかかったのかを示す指標になります。

CCCの計算はむずかしくありません

CCC = 「卸資産回転期間」 + 「売上債権回転期間」 - 「買入(仕入)債務回転期間」です。これら 3 つの回転期間は、会社の損益計算書と貸借対照表の金額から算出します。

「棚卸資産回転期間」は、商品、原材料などの棚卸資産(期首と期末の平均)の金額を、月商(売上高÷12 カ月)で割って算出します。「売上債権回転期間」は、売掛金と受取手形(期首と期末の平均)の合計額を月商で割ります。「買入債務回転期間」は、買掛金と支払手形(期首と期末の平均)の合計額を月商で割ります。月商の代わりに日商(売上高÷365 日)でも各回転期間は計算できます。なお、各回転期間の計算方法は、財務総合政策研究所公表の「法人企業統計調査」等にも示されています。

既述の計算式のように、仕入商品(原材料、商品等の在庫)がどれくらいの期間で販売されたのか(棚卸資産回転期間)、販売した商品の代金がどれくらいの期間で

回収されたのか(売上債権回転期間)、 仕入商品の支払いがどれくらいの期間で行われたのか(買入債務回転期間)、 という 3 つの時間軸から資金繰りを考えるための指標が CCC なのです。

CCC の値を見てわかること

算出した CCC が、例えば 2 カ月であれば、事業に不可欠な商品や原材料の仕入支払いを行ってから(=仕入れにともなって生じた買掛金を支払い)、それらを販売して(=商品を販売)、代金を回収する(=販売により生じた売掛金を現金で回収)までに、平均すると約 2 カ月かかったことを意味します。

一般的には、この値が短いほど、資金を早く回収できたことを意味し、その資金を次の事業に投下することが期待できます。この値がマイナスになると、仕入支払いよりも先に売上代金を回収しているということの意味します。

ただし、この値は資金の流れを正確に表しているのではなく、あくまで財務諸表上の数字から平均的な値を導き出したものです。また、会社や業種の違いによって、CCC の値は異なると思われますが、事業における効率的な資金繰りを考える場合に CCC を確認してみるとよいかもかもしれません。